女子大学生のスマホ使用に関連する認知行動的要因の検討

Generalized Problematic Internet Use Scale 2 尺度を用いて

○吉武尚美¹

(1 順天堂大学国際教養学部)

キーワード: スマホ使用, GPIUS2, 女子大学生

Cognitive behavioral factors predicting to smartphone use among female college students: Validation of GPIUS 2

Naomi YOSHITAKE¹

(1 Juntendo University)

Key Words: smartphone use, GPIUS2, female college students

目 的

Davis (2001) はネットの問題利用に関する認知行動理論を提唱し、ネット依存は単なる行動上の問題だけではなく、ネット利用に関する認知や感情の相互作用によると主張した。Caplan (2002) はこの理論に基づき尺度を開発し、実証的検証の後に改訂版を発表している (Generalized Problematic Internet Use Scale2: GPIUS2; Caplan, 2010)。本研究は GPIUS2 の心理尺度特性の検証を行うとともに、女子大学生のスマホ使用の悪影響を予測する認知・行動的要因を検討した。

方 法

調査手続きと対象者 2017 年 11 月に女子大学 2 校での心理学概論授業の受講生を対象に、無記名で質問紙調査を実施した ($N=174$, 平均 19.4 歳 ($SD=1.3$))。

使用尺度 ①GPIUS2 (Caplan, 2010): 使用許可を得た上で日本語版を作成した。GPIUS2 はネットコミュニケーションの選好度, ネット利用のデメリット, 感情調節, 自己調節の 4 つの下位尺度で構成され、自己調節にはさらに衝動的利用と認知的衝動性という下位尺度がある。各下位尺度は 3 個ずつの項目があり、合計 15 項目である。回答は 1(全然あてはまらない) ~ 6(非常によくあてはまる) で求めた。

このほか、GPIUS2 の概念妥当性を検証するため、②1 日のスマホの利用時間 (分) ③孤独感 (工藤・西川, 1983), ④コミュニケーション・スキル (ENDCOREs: 藤本・大坊, 2007) を尋ねた。

結 果

(1) GPIUS2 の心理尺度特性の検証

下位尺度の信頼性 (α) は、ネットコミュニケーションの選好度, ネット利用のデメリット, 感情調節, 衝動的利用との認知的強迫の順に、.61, .70, .71, .85, .80 であり、15 項目全体では .90 であった。また、確認的因子分析では想定される構造 (Caplan, 2010) が再現された ($\chi^2(df)=175.28$ (75), CFI=.93, RMSEA=.09, $p<.001$)。構成概念妥当性の検証として、GPIUS2 の下位尺度はネット利用時間と孤独感とは正の相関、コミュニケーション・スキルとは負の相関が予想され、おおむね妥当な結果が得られた (表 1)。

(2) 女子大学生のスマホ使用の悪影響を予測する要因

スマホ利用による悪影響 (約束を忘れた, やすきことをこなせなくなった, など) が認知行動的要因によりどのように説明されるかを検討するため、GPIUS 2 のデメリット得点

表1 GPIUS 2 の下位尺度の記述統計量と妥当性検証結果

	M	SD	スマホ利用時間	孤独感	スキル
ネット選好	7.68	2.78	.12	.12	-.21**
デメリット	6.83	2.88	.30**	.18*	-.26**
感情調節	9.93	3.33	.31**	.26**	-.21**
衝動的利用	7.33	3.21	.40**	.08	-.26**
認知的強迫	8.76	3.46	.38**	.14*	-.30**

注: * $p<.05$, ** $p<.01$

表2 女子大学生のスマホ利用による悪影響を予測する認知行動的要因の階層的重回帰分析結果

説明変数	B	SE	β	ΔR^2
step1				.09**
ネット利用時間(分)	.07	.00	.30**	
step1				.53**
ネット利用時間(分)	.00	.00	-.02	
ネット選好	.05	.06	.05	
感情調節	-.03	.05	-.04	
衝動的利用	.23	.08	.26**	
認知的強迫	.47	.07	.57**	

注: * $p<.05$, ** $p<.01$

を従属変数とし、スマホ利用時間ならびに GPIUS 2 の他の下位尺度得点を説明変数とした階層的重回帰分析を行った (表 2)。行動や感情より、衝動的利用や認知的強迫といった認知的特性がスマホ利用による生活への悪影響と有意な関連を示した。

考 察

GPIUS 2 は、我が国の女子大学生にも使用できる尺度であることが確認された。今後は男子学生や、異なる発達段階のサンプルで尺度検証を進める必要がある。また、スマホ利用が日常生活に悪影響を及ぼすのは、利用時間の多さや気分転換といった行動や感情的要因ではなく、始めたらやめられない、やらないと不安で仕方がないといった認知的要因により規定されたことから、自己コントロールへの介入の重要性が示唆された。

引用文献

- Assuncao, R.S., & Matos, P.M. (2017). The Generalized Problematic Internet Use Scale 2: Validation and test of the model to Facebook use. *Journal of Adolescence*, **54**, 51-59.
- Caplan, S.E. (2002). Problematic Internet use and psychosocial well-being: Development of a theory-based cognitive-behavioral measurement instrument. *Computers in Human Behavior*, **18**, 553-575.
- Caplan, S.E., & High, A.C. (2007). Online social interaction, psychosocial well-being, and problematic Internet use. *Internet addiction: A Handbook and Guide to Evaluation and Treatment*, 35-53.
- Caplan, S.E., Williams, D., & Yee, N. (2009). Problematic Internet use and psychosocial well-being among MMO players. *Computers in Human Behavior*, **25**, 1312-1319.
- Davis, R. (2001). A cognitive-behavioral model of pathological Internet use. *Computers in Human Behavior*, **17**, 187-195.
- 藤本学・大坊郁夫 (2007). コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み. *パーソナリティ研究*, **15**, 347-361.
- Kim, H-k., & Davis, K.E. (2009). Toward a comprehensive theory of problematic Internet use: Evaluating the role of self-esteem, anxiety, flow, and the self-rated importance of Internet activities. *Computers in Human Behavior*, **25**, 490-500.
- 工藤力・西川正之 (1983). 孤独感に関する研究(I)孤独感尺度の信頼性・妥当性の検討. *実験社会心理学研究*, **22**, 99-108.